

科目名	博物館資料保存論							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	G2-18-172	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

博物館において適切で安全な資料保存・活用を行うために必要な基本的知識を、歴史的・科学的・技術的な側面から、講義を通じて多角的に学習する。資料保存の重要性を確認し、環境や材質、構造上の問題などの資料を取り巻く状況を客観的に把握することで、資料を観察する目と現状判断する能力を養う。

授業の到達目標

博物館資料について保存の意義と基本理念を理解し、各種資料の材質や構造上の特性、劣化要因などをふまえて、適切な展示・保存環境を実現・維持するための基本的な知識を身につけ、活用することができる。

授業計画

1. 「保存」とは何か
2. [事例研究]文化財保護の歴史
3. 博物館資料の材質と取り扱い(1)立体物の構造・素材・特性
4. 博物館資料の材質と取り扱い(2)平面物の構造・素材・特性
5. 博物館における危機管理
6. 資料の劣化と保存(1)温湿度・光
7. 資料の劣化と保存(2)空気汚染
8. 資料の劣化と保存(3)生物被害とIPM
9. 資料の劣化と保存(4)自然災害と人為災害
10. 「包括的な保存」を考える(中間まとめ)
11. 博物館資料の科学的調査と技術
12. 修復保存の基本と実際(1)彫刻作例
13. 修復保存の基本と実際(2)装演作例
14. 修復保存の基本と実際(3)古文書
15. 海外の博物館における資料保存と全体の考察

準備学習(予習・復習)・時間

授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する(60分)

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

大堀哲・水嶋英治編著『博物館学 IV 博物館資料保存論・博物館実習論』(学文社、2013年) 青木豊編『人文系博物館資料保存論』(雄山閣、2013年) 他は授業中に紹介する

学生に対する評価

期末レポート(60%)、授業時に行なう課題(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館資料保存の意義を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける
- (B) 博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる
- (A) 博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる
- (S) これからの博物館資料保存のあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行なう

その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。近年は、保存・修復をテーマにした特別展や書籍、雑誌特集などから現場・現況を見聞きする機会が格段に増えた。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。